

『いじめ』について

43期生

I テーマ設定の理由

中1の3学期まで私は、俗に言う「いじめられっ子」だった。いじめが始まり出したのが小2の頃であったから、6年間ずっと何らかの形で圧迫が加えられてきた事になる。

最近は何事もないような「事件」も見られなくなったが、それでもこの問題は、決して、無視してよいものではない。今、周囲の現状を見つめ、その中で私達附中生はどうあるのか、「いじめ」はどうしたらなくなるのか。多くの知りたい事があった。それに、6年間の体験を無駄にしたくなかったので、このテーマを設定した。

II 研究方法

- (1) 『いじめとは何ぞや?』 → “いじめ”に関する基礎知識、ということで、
A: 文献を参考に、どのような例があげられているのか調べておく。
B: いじめの種類にはどのようなものがあるのかを調べておく。
C: 世間一般における、「いじめられっ子」像
- (2) 『いじめと私たち』 → “いじめ”に対する附中生の意識を調べるために、アンケートをとり、附中生の傾向をさぐる。
- (3) 『まとめ』 → (1)、(2)のまとめ、そして自分なりの「いじめ論」を確立する。

III 研究内容

いじ・める^{イジメ}【苛める】 弱いものを苦しめる。

(1) 『いじめとは何ぞや?』

A: どんな事が、起こりつつあるのか?!

「いじめ」と一言で言っても、いろいろな方法があり、また、目的もさまざまである。自分の体験も含め、15例を集めたが、全部をのせることはできないので、2、3例ほど選ぶ。

〈いじめられる子〉

①東京練馬・小6…理由は不明。5～6人から毎日いじめられる。

具体的には、ロッカーに入れて廻される。バンドで首をしめ、“ペット”にされる。殴る など。

親には言っていない。

②京都・高2…中学の時からずっと続いている。理由は不明。服を捨てられたり、トイレで水をかけられたり、クラブでは集中的にボールをぶつけられたりする。皆が「汚い」とののしる。友達がいなくて昼食も一人。

先生には、相談したにもかかわらず、知らん顔。

授業中、答えようとする、皆がにらみつけるため何も言えない。先生は、「こんなもの分からないのか、バカ」と言う。

テストの時に休むと先生は、
「お前が休んでくれたので平均点が上がった」
と言ってきた。これをきっかけにぐれ始めた。
睡眠薬を多量に飲んで入院した時も、先生は知らん顔をしていた。

〈いじめる方は…〉

③東京・14才…ターゲットは、おとなしい子と頭のよい子。

いじめ方は、トイレに連れ込んで口に雑巾を詰めこんで、便器に顔を突っ込み、無理矢理に水を飲ませる。また、ほうきで叩くなどを、14対1くらいの人数比で行う。周囲はだまって見ている（何も言わせない）。理由は、面白くない、気に入くないから。

→全体的に、文献に出たりするくらいなのでかなり恐ろしいものが多かった。

B：いじめってどんな事するの？

少し、例を見てきたが、この3つの例の中に、パターンがあることに気付いてくださっただろうか。私の集めた15例の中には3つのパターンが読みとれた。

〈無視によるいじめ〉 → 仲間はずし、無視が中心。(②)

〈陰湿なもの〉 → 様々な例があるのだが、要するに進んだいやがらせ。(②)

〈暴力的なもの〉 → 殴る、けるだけでなく、無理に何かをさせるのもこれに入る。(①、③)

また、例には出なかったが、このようなものもある。

〈たかりによるいじめ〉 → 本人の弱みにつけこんで、金品を「まきあげる」。

→他にも多くの「いじめのテクニク」があるが、いずれもひどいものばかりである。実際に、いじめによって自ら、その尊い命を絶つ、という例も存在する。

何故、そうまでして「いじめ」するのか？

C：いじめられっ子白書—どんなタイプが「被害者」か？—

私の集めた15例のいじめにおける「理由」は次のようなものであった。

- 誤解 ○転校してきたから×2 ○言葉がハッキリ言えないから
- 変なウワサがあるので ○目付きがイヤと言われた ○性格が弱い×3
- 特技があり、成績が良いので×3 ○家族構成・その職業がめずらしい(!?)
- 何となく面白くない・気に入くない×2 ○不明×2

(注：2つ以上の理由が重なっている場合もある)

たった15例でこんなにも多くの「理由」があげられる。これは、「いじめる相手は誰であろうとかまわない」という、1つの傾向ではないだろうか。

しかし、逆に共通点も見られる。ここにあげた全ての例において言える事は、「何らかのハンデを背負っている」つまり、「いじめる側にとって異質なもの」である、という事だ。

→「いじめ」の標的になりやすい「異質なもの」。多くの例が見られるが、たとえば……

①弱い、小さい…体力、気力、けんかなど、どのような事であっても「弱い」というのは、大きなハンデとなってしまうようである。その意味でこのタイプが最も狙われやすいのではないだろうか。ちなみに、身体の不自由な子供は、文献によると、それほどいじめられていないようである。

②見苦しい…見苦しい、というのか、どこことなく垢抜けないというか、完全に不潔なわけではないのだが、なんとなく雰囲気そうであるとか、俗に「ダサイ」と言われるものまでが攻撃の材料になってしまう。

③我慢強い…意外な事にも、忍耐力のある子はいじめやすいようだ。いじめる側にしてみれば、泣きわめく、反撃するなど「積極的な行動を取られると「シラケる」。つまり、我慢強い=いじめ甲斐のあるヤツ、という等式が成り立ってしまうのだ。

④性格に問題がある…というのか、「人に嫌われる性格」の持ち主。以前なら敬遠されるだけすんだのだが…。結局はいじめる側の「気に入くない」にあてはまればよいのだから(?)いくらでもいじめる口実などというものは作れてしまう。

⑤内向的な性格…仮にいじめられたとしても、誰にも訴えることができないので、いじめるには非常に好都合(!!)であり、また、いじめが露顕しても、「性格に問題がある」と思われやすいため、これまた好都合なのである。

⑥勉強ができる…「競争社会」と言われる今の世の中、やはり1人ずつ抜けて出来るというのはどうも「気に入くない」らしい。落ちこぼれにしてみれば、教師は、できる子の方ばかりを向いていて、その結果、自分達は疎外された、と思っているので当然憎い。附中の先生方はどうだろうか…？(そんな事は無いですよ)

⑦転校生…先ほど述べたが、「異質なもの」はターゲットになりやすい。転校生、というのは、待ち受ける側にすれば、れっきとした「異分子」。

⑧個性的である…これもまた、「異質なもの」の条件を十分に満たすと思われる。
→今、思えば、私の場合、⑧が関連していたのであろう。しかし、「個性」をテーマとして学校でとりあげてくれるようになって、いじめは止んだのだった。

(2) 『いじめと私たち』—いじめに関する附中生の意識—
 ここでは、43期生を対象に、附中生の傾向的なものを調べていきたいと思う。

— 調査について —

問題作成…研究者(海野)が仮説をふまえ、いじめについての質問を7つ設けた。

- ①→いじめを見た時の感情 ②→いじめを見た時の行動
 ③→“いじめ体験”の有無 ④→いじめの起こった時期 ⑤→人数について
 ⑥→方法について ⑦→どんなタイプに「むかつく」か
 (④、⑤、⑥については、③で「ある」と答えた者のみ)
 すべて選択肢式である。

調査方法…B4版1枚の問題を8月10日(中間発表日)2年生各クラスに配り、答えてもらった。

調査対象…大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校43期2年生(全クラス、ただし欠員数名)

→なお、紙面発表において、仮説は省略させていただく。

〈データから読み取る・附中生といじめ〉(注:各項目、上段…男子、下段…女子)

Q1. もし、あなたの周囲にいじめられている人がいるとしたら、どう思いますか?

いじめる方が悪い	29
いじめられる方が悪い	32
自分でなくて良かった	17
良かった	11
こわい	15
無関心	10
その他	9
	16
	6
	5
	24
	26

・男女共に「いじめる側に怒りを覚える」の答えがトップであった。
 ただ、その他の答えとして「人や場合による」というものも多かった。「怒りを覚える」人の中にも本当はいるのでは…?
 しかし、いじめを「悪い事」だと認識してくれている人もいることにホッとした。

Q2. Q1のとき、あなたならどんな行動に出ると思いますか?

直接注意する	13
いじめに参加する	5
先生、友人に言う	13
かかわらない	0
その他	5
	12
	48
	59
	21
	24

・Q1の結果から多少、期待していたのだが…。トップは「かかわらない」だった。
 答えにコメントをつけてくれた人がいたのだが、「これが一番安全」と…。

かかわらないのは自分を被害者にしないためだろうか?それとも自分が中に入るとよけい混乱してしまう、という「気配り」からだろうか。その他では、「自分が何かしてもどうかなるものではない」「かかわれない」「注意する勇気がない」「見とく」などの意見もあり、非常に気になった。また、ここでも「人や場合による」人もちらほら見られた。

Q3. あなたは何らかの形で「いじめ」に関係した事がありますか?
 ・男女共に「いじめに関係したことはない」という答えは非常に少なかった。全体的に「傍観者」である(あった)者が多く、Q2のトップ「かかわらない」と一致する。また、「いじめた」「いじめられた」両方をチェックする者も多数いた。

いじめられた	18
いじめた	27
いじめがあるのを知っていた	29
ない	23
	32
	40
	21
	10

▲Q3

小学校以前	5
小1	1
小2	7
小3	2
小4	6
小5	8
小6	7
中1	9
中2	12
	19
	19
	19
	24
	23
	12
	14
	8
	5

Q4▶

Q4. いじめがあったのはいつの事ですか?

・「小学校以前」の答えはあまり見られない。
 これは、幼い頃の記憶がない、もしくは、ケンカをしても、すぐに仲直りできるといった幼児特有(?)の性格のためであろうと思われる。小1、小2…とだんだん「いじめの時期」の割合は上がっていき、ついに小6でピークに達する。そして中1、中2と減る傾向にあった。が、その理由は定かでない。しかし「受験」のおよぼす影響は大きなものだと考えられる。

Q5. 人数についてはどうでしたか?

1対1	10
小グループが1人をいじめる	2
多人数が1人をいじめる	50
ターゲットは複数	59
その他	24
	28
	13
	7
	3
	4

・1人が1人をいじめるパターンは少なかった。逆に多かったのが、小グループが1人をいじめるパターン。
 この結果とQ3の「いじめた」「いじめられた」両者の割合が

〈いじめた〉〈いじめられた〉または〈いじめた=いじめられた〉に近いものである事から、小グループが1人をいじめるパターンが代表的であると思われる。

Q6. 方法的にはどのようなものが多かったですか?

暴力的	15
無視によるいじめ	5
悪口	28
いやなあだ名で呼ぶ	52
持ちものをかくす	25
その他	29
	19
	3
	8
	6
	5
	5

・男女ともトップは「無視・仲間はずし」であったが、この質問では、かなり男女差が見られた。
 女子には少ない暴力が男子では15%を占め、「悪口・うわさ」は男子にも多く見られたものだが、これは、日常の会話の中で進めることの可能

ないいじめである。その意味でか、女子に支持者(!!)が多かった。あえて無視を選ぶのは教師の目にとまる事を防ぐためであろうか?

Q7. あなたがいじめたくなる(むかつく)タイプを3つ選んでください。

(選択肢は省略させていただく)

この質問に対する回答で、男女に共通するのは、「よくしゃべる」(男子・女子共に5位)「変わっている」(男子5位・女子2位)「する事なす事目立つ」(男子・女子共に1位)の3項目。

やはり、まだ附中生にも異質さを嫌う気持ちがあるのだろうか?

する事なす事目立つ	1位	する事なす事目立つ
ちょこまかしている	2位	変わっている
不まじめ	3位	気が強い
外見が悪い	4位	どことなく垢抜けない
変わっている	5位	無口
よくしゃべる	5位	よくしゃべる
運動神経がにぶい	5位	自己中心的

(注：左…男子 右…女子)

▲Q6. 男女別ワースト5

IV まとめ

最近「いじめ」をマス・コミもあまり取りあげたりしない。が、テーマ設定の理由でも述べたように決して見過してはならない問題でもある。

(2)のQ4でも分かるように、中2の今でもいじめられている人がいるのだ。

目撃したのなら「注意する」「止めに入る」には、当然の事とはいうものの、かなりの勇気、そして決断が必要となる。だから、と言って、自分が被害者にならぬために防衛的にグループを作ったり、いじめに参加する事は良くない。この機会にぜひ、友達のあり方、また人権について考えてほしいものである。

また、いじめられる子に「性格を変えろ」と言っても、そう簡単に変えられるものではない。個性を認める、ということは、いじめをなくす上で非常に大切なポイントだと言える。

人と人がぶつかりあうのは、人間が成長していく過程において避けることのできないものである。しかし昔と違って、今のいじめは止めに入る者がいず、より怖い内容になるという傾向が見られるのも事実である。(1)からも分かるが、「いじめ方」はいずれもひどく人間性をふみにじるようなものばかりである。いじめられる側の身になれば絶対にそんな事はできないはずだ。また絶対にあってはならない。今の附中は例に比べれば「平和」だと思える人がいるかも知れない。しかし、いつまでその平和が続くかは誰にも分からない。第2、第3の悲劇を産まないためにも「人の痛みの分かる人間」になってほしいと思う。いや、なるべきである。

V 反省・感想

重いテーマであるだけに、アンケート調査が成功するか心配だったが、皆きちんと答えてくれたのでうれしかった。去年に比べて文献へのたより方が少なく研究を終える事ができ、良かったと思っている。反省としては、43期生のみを調査したにもかかわらず、「附中生」と表現してしまったなどの多くのミスがあがるが、来年にこれを生かす事を目標にがんばりたい。

VI 参考文献

- ・「いじめ」を撃て 栗原 玲児著〈読売新聞社〉1985年
- ・いじめなんかぶっとばせ 家本 芳郎著〈民衆社〉1985年
- ・広辞苑 第三版 新村 出編〈岩波書店〉1983年